

## マラキ書：暗闇の中の希望 マラキ書 1：暗闇の中にも希望はまだある

今日から、2024年の（クリスマス前の）アドベント・シリーズを始めます。今日の私たちがクリスマスとして祝う、イエス・キリストがこの世に来られた待降節を迎えるにあたって、これから4週間にわたり、旧約聖書のマラキ書の4章を見ていきます。もちろん、私たちの永遠の救いを購うために、また、人間の罪のために死んでくださる預言された救い主、メシアの到来は、新約聖書で最初に語られる出来事です。しかし、神はイエスが来られる前から、神の靈感を受けた間違いのない御言葉としてのユダヤ教の聖典である旧約聖書を、私たちに与えてくださいました。またそれを通じて、イエスがこの世に来られることを私たちに語られてきました。そして、聖書の目次を見ていただきますとわかるように、マラキ書はイエスが来られる前に私たちに語られた最後の神の言葉なのです。この後、神は430年間、記録に残る形で、再び語られることはありませんでした。この430年間は、神の民に対する沈黙の期間なのです。なぜこのような沈黙の期間があったのかについては、マラキ書を見ると理解することができます。

（このマラキ書を理解するために）当時イスラエルで起こっていたこと背景を知る必要があります。サウル王から始まりダビデ王までおよそ460年にわたって王国として、イスラエルは統治されていましたが、紀元前586年、バビロニアに敗れ、多くのイスラエルの民がバビロンの地に捕囚として連れて行かれました。これはバビロン捕囚と呼ばれますが、このバビロン捕囚は、バビロニアがペルシャに敗れ、ペルシャ王がイスラエルの民を解放し、イスラエルの地に帰還させたことで終わりました。紀元前536年にゼルバベルのもとで5万人が帰還したのを皮切りに、紀元前458年にはエズラのもとで、そして最終的にはネヘミヤのもとで第三陣が帰還し、イスラエルの民は徐々にイスラエルの地に戻っていきました。マラキの時代には神殿と都は再建され、イスラエルの民は捕囚から解放されて約100年が経とうとしていました。しかし、マラキ書に見られるように、イスラエルの地全体に強い絶望感と暗闇が漂っていました。彼らが捧げる礼拝は非常に弱いものでした。それは、心のこもった礼拝ではありませんでした。神への礼拝を怠った彼らの罪は、社会のあらゆる部分に浸透していききました。それは彼らの神に対する不信仰の結果でした。結局のところ、エルサレムから支配し治める、約束されたメシアは未だ到来しておらず、（イスラエルの民はバビロニアの）捕囚状態からは脱したものの、依然として外国の支配下にあり、神に明らかに自分たちは見捨てられたとイスラエルの民は考えていました。マラキの1章1節にあるのは、彼らのこのような暗い絶望的な霊的状态なのです。マラキ書 1：1、**宣告。マラキを通してイスラエルに臨んだ主のことば。**

次に私たちが考えなければならない問題は、マラキとは誰なのか？という問題です。預言者マラキについては、聖書のこのマラキ書以外ではあまり記述がありません。ひょっとすると、マラキという名前は個人の名前を指すものではないかもしれませんが、マラキという名前は、単に「私の使者」という意味なのです。ということは、この最後の預言者は、名もない預言者かもしれませんが、ここでこのことは大きな問題ではありません。なぜならば、重要なのは、彼の預言が彼のメッセージではないという点にあるからです。では、これは誰のメッセージなのでしょう？聖書は明確にこの問いに答えています。これは、**主のことば**であり、預言なのです。英語版の主を意味するLordはすべて大文字で書かれていますし、日本語版の主は太字で書かれており、これが神の正式名称であるヤハウェであることを示しています。マラキは（言葉を預かった）単なる預言者に過ぎないのです。このメッセージは神ご自身からのものなのです。だからこそ、主が言われることには何でも耳を傾けるべきなのです……つまり、メッセージを預かる預言者が重要な人物であるから、耳を傾けるのではなく、そのメッセージを送っている方が重要であるからこそ、耳を傾けるべきなのです。そのメッセージを送っている方とは、神ご自身なのです。神が言われることは、マラキ書の4章全体にわたって書かれている7つの声明と、イスラエルの民の神の声明に対する7つの疑問、そして神がご自分の言われることの（正しさを証明する）7つの弁護に別れています。今朝は、その最初の2つの対話を見ていきます。それでは、2節から5節を読んでいきましょう。まず、最初の声明が2節に書かれています。<sup>2</sup>「わたしはあなたがたを愛している。——主は言われる——そして次にイスラエルの民の質問がきます。しかし、あなたがたは言う。『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と。それに対して神は次のように答えられています。エサウはヤコブの兄ではなかったか。——主のことば——しかし、わたしはヤコブを愛した。<sup>3</sup> わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の相続地を荒野のジャッカルのものとした。<sup>4</sup>たとえエドムが、『私たちは打ち砕かれたが、廃墟を建て直そ

う』と言っても、——万軍の主はこう言われる——彼らが建てても、わたしが壊す。彼らは悪の領地と呼ばれ、主がとこしえに憤りを向ける民と呼ばれる。<sup>5</sup>あなたがたの目はこれを見る。そして、あなたがたは言う。『主は、イスラエルの地境を越えて、なお大いなる方だ』と。』

神からの預言の冒頭は、「わたしはあなたがたを愛している。」という美しい言葉で始まります。これは、神が民に聞かせたい最も重要なメッセージなのです。神は、ご自身の民として選ばれた民と強い絆で結ばれているのです。しかし、選ばれた民は、神に対して絶望的なほど無関心であり、彼らは神の愛に疑問を抱いているのです。『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と。人々には、神が愛してくださっているという証拠が何一つ見えないのです。人々が見渡して見たのは、ソロモン王が最初に建てた神殿ほど美しくは再建できなかった神殿であり、ダビデの血筋からイスラエルの王が一人も輩出されないまま統治されているエルサレムであり、それらを通じて、ペルシャ帝国の善意によってのみ自分たちが存在していることを常に思い知らされているという事実でした。当時のイスラエルは自分たちの王がいる独立した国ではありませんでした。ですから、彼らは、神が自分たちに対して持っているという愛の証拠を見つけることができなかつたのです。そこで、神は、アブラハムの一人息子イサクとその妻リベカの間には双子の兄弟ヤコブとエサウが生まれた、その昔、彼ら先祖の最も古い時代に、引き戻しています。このヤコブは、やがて12人の息子をもうけ、その息子たちがイスラエルの12支族となりました。神は、エジプトの地で数十万にも増え、捕囚となったその12支族をエジプトの地から導き出し、かつての王国の栄光はなかったものの、約束の地イスラエルへと導き出しました。この歴史はすべて、神のご計画による一つの小さな選択から始まっているのです。神は兄であるエサウではなく、ヤコブを愛することを選ばれました。神はエサウを選ぶこともできたし、エサウを通して同じことをすることもできました。しかし、神はヤコブを選び、そこからイスラエルの民を作り出したにも関わらず、その民は神の愛を疑っているのです。神は、ヤコブの兄弟エサウから生まれたエドム人を扱うように、イスラエルの民を扱うこともできたはずなのです。神は、その怒りをエドム人に向けられました。なぜならば、歴史的に見ると、エドム人の部族の一つであるアマレク人が、イスラエルに最初に敵対した民族の一つであったからです。出エジプト記17章8節には、<sup>8</sup> さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。と書かれている通りです。アマレク人をはじめとするエドム人は、最終的に敗れて彼らの故郷が不毛の砂漠となるまで、その歴史を通してイスラエルに敵対し続けました。イエスの時代にも、エドム人は存在していましたが、かつての偉大な民族としての影はなく、ほんの少しの人々が残っただけでした。これは全て、神がエサウよりもヤコブを愛することを選ばれたからこそ起きたことなのです。実際、神のヤコブへの愛はあまりに強かったため、神はその愛に対比する言葉として憎しみという言葉を用いているほどです。この神の「憎しみ」を後ろ向きに捉えるのではなく、私たちは皆、罪深い人間であるがゆえに、神から憎まれるべき存在、憎まれるのが当然の存在なのだとして捉えるべきなのです。この憎しみは、神の怒りと表現されることもあります。ローマ人への手紙1章18節には、<sup>18</sup> というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです、と述べられています。そして数章後のローマ人への手紙3章では、私たちすべてが不義であり、罪深いことが明らかにされています。ローマ人への手紙3章23節には、<sup>23</sup> すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、と結論づけられています。私たちは皆、神の怒りに値するが、神はその大いなる愛において、罪の報いを受けるのではなく、ヤコブのように、特定の者を救いに選ばれたのです。この事実は、神が選ばれた人々に対して抱いている大きな愛を示しています。しかし、イスラエルの民のように、罪人を贖う神の驚くべき善意と愛に気づくどころか、イスラエルのように、『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と、神の愛を疑うようになってしまうのです。私たちは、ヨハネによる福音書3章16節の言葉が本当にどれほど力強いものであるかを理解できないのです。ヨハネの福音書3章16節<sup>16</sup>神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神は（本来であれば）罪の中にある者に愛を示すことができなかつたはずなのです。私たちの罪に対する唯一の真に正しく聖なる反応は、神の怒りです。しかし、神は、そのひとり子であるイエス・キリストを十字架につけて死なせ、イエス・キリストは神の怒りを一身に受けて、私たちの罪のために私たちの身代わりとなって死ぬことを選んでくださったのです。イエス・キリストが私たちの身代わりとなってくださったがゆえに、私たちに怒りで応じるのではなく、神は愛を持って選ばれた人々に対して（愛の）行動を起こすことができたのです。イスラエルの民は神の愛を最初に経験

し、イエスが私たちのために成し遂げてくださったことを経験しました。神は、その民に、エドム人と自分たちへの扱いを比べながら振り返り、その中でイスラエルの民への大きな愛を理解するように呼びかけているのです。このマラキ1章の最初の部分を5節で終えるにあたって、次のように述べています。<sup>5</sup>「あなたがたの目はこれを見る。そして、あなたがたは言う。『主は、イスラエルの地境を越えて、なお大いなる方だ』と。クリスチャンであっても人生に忍びよる絶望に対する最初の答えは、私たちがどれほど神に愛されているかを振り返ることにあります。旧約聖書を通して描かれているように、神が、私たちの罪の贖い主を遣わし、救い主イエス・キリストの流された血によって神の怒りから救われるように、私たちを選んでくださったという事実は、神の私たちへの溢れる愛を示しています。

イスラエルの民が、神を信頼できず、自分たちに対する神の大いなる愛に対しても疑問を抱くような絶望的な状態に陥ってしまった原因のひとつは、神への礼拝を無気力な儀式に変えてしまったことにあります。そして、このような状態に陥った責任は、宗教指導者である祭司たちにありました。今日は祭司たちが負うべき責任の最初の1つだけを見ていきます。ただ、(マラキ書を通じて) 同じような構造が何度も見られます。まず、6節に、再び神の言葉があります。<sup>6</sup>「子は父を、しもべはその主人を敬う。しかし、もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。もし、わたしが主人であるなら、どこに、わたしへの恐れがあるのか。——万軍の主は言われる——あなたがたのことだ。わたしの名を蔑む祭司たち。しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、あなたの名を蔑みましたか』と。そして、6節の終わりには、民衆、あるいは、祭司の口から出たと思われる、『どのようにして、あなたの名を蔑みましたか』という質問が出てきます。そして、7節から始まる神の弁護は、神の主張していることの証拠をはっきりと示しています。<sup>7</sup>「あなたがたは、わたしの祭壇に汚れたパンを献げていながら、『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか』と言う。『主の食卓は蔑まれてもよい』とあなたがたは思っている。<sup>8</sup>あなたがたは 盲目の動物を献げるが、それは悪いことではないのか。足の萎えたものや病気のものや病気のものを献げるのは、悪いことではないのか。さあ、あなたの総督のところを差し出してみよ。彼はあなたを受け入れるだろうか。あなたに好意を示すだろうか。——万軍の主は言われる——<sup>9</sup>さあ、今度は神に嘆願したらどうか。『われわれをあわれんでください』と。このことはあなたがたの手によることだ。神があなたがたのうち、だれかを受け入れるだろうか。——万軍の主は言われる——<sup>10</sup>あなたがたのうちには、扉を閉じて、わたしの祭壇にいたずらに火をともしないようにする人が、一人でもいるであろうか。わたしはあなたがたを喜ばない。——万軍の主は言われる—— わたしは、あなたがたの手からのささげ物を受け入れない。<sup>11</sup>日の昇るところから日の沈むところまで、わたしの名は国々の間で偉大であり、すべての場所で、わたしの名のために きよいささげ物が献げられ、香がたかれる。まことに、国々の間で偉大なのは、わたしの名。——万軍の主は言われる——<sup>12</sup>しかし、あなたがたは『主の食卓は汚れている。その果実も食物も蔑まれている』と言って、わたしの名を汚している。<sup>13</sup>また、『見よ、なんと煩わしいことか』と言って、それに蔑みのことばを吐いている。——万軍の主は言われる—— あなたがたは、かすめたもの、足の萎えたもの、病気のものや病気のものを連れて来て、ささげ物として献げている。わたしが、それをあなたがたの手から取って、受け入れるだろうか。——主は言われる——<sup>14</sup>自分の群れのうち雄がいて、これを献げると誓いながら、損傷のあるものを主に献げるような、ずるい者はのろわれる。わたしは大いなる王であり、——万軍の主は言われる—— わたしの名は諸国の民の間で 恐れられているからだ。」

マラキ書の最も重要な一節を選ぶとすれば、おそらく6節、しかし、もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのかになるのではないのでしょうか。神への礼拝で民を導くはずの祭司たちが、神を敬わない方法で礼拝を捧げることに民を導いていたのです。(祭司たちが捧げた) 生贄は、私たちの罪のために神の怒りを受けながらも、自分自身では罪を何一つ犯されなかったお方が必要とされる純粋さの象徴であるどころか、不完全で欠陥のあるものでした。これらの行為によって示された神への礼拝に対する尊敬の欠如は明らかです。これらの行為は、神を、それらの祭司たちや、生贄に捧げられる動物を飼育し捧げる者たちをののしるところまで導きました。私たちが礼拝するとき、神は私たちの最善を要求し、期待されているのです！私たちの創造主である神には、私たちに最善を要求する権利があるのです。神への礼拝がどのようなものであるべきか、神自身がお決めになるのです。しかし、8節にあるように、祭司たちは神を地上の政府の指導者たち、総督たち以下の存在として扱っていたことが見えます。さあ、あなたの総督のところを差し出してみよ。彼はあな

たを受け入れるだろうか。あなたに好意を示すだろうか。——万軍の主は言われる。人間の指導者、地上の政府の指導者たちにさえそのような無礼な仕打ちを祭司たちはしないにも関わらず、なぜ全宇宙の創造主である神にそのような仕打ちをしたのでしょうか？このことを私たち自身の状況に当てはめて考えるべきです。神は特定の方法で、私たちが礼拝を捧げることを要求されています。神をどのように礼拝するかは、それをすると自分が気持ちいいから、そのように礼拝すれば都合が良いからという理由で、決めることはできないのです。「教会とは何か」から始まって、私たちの礼拝は、神の考えに基づいていなければならないのです。そして、私たちは聖書の中に神の考え方を見出すことができるのです。どのように礼拝をすべきかについては2つの考え方があります。ひとつは、神が命じた方法に忠実に礼拝を行うという考え方で、もうひとつは、聖書で特別に禁じられていないことは何でも許されるとする考え方です。皆さんには、YIBCでの礼拝を最初の考え方に近づけようとしていることがお分かりいただけると思います。私たちは、聖書そのものにある命令やパターンに忠実に礼拝や教会運営を構成しようとしているのです。私たちの教会と礼拝は、聖書に記されている命令と原則に沿ったものでなければなりません。もちろん、私たちの教会がこれを完璧に実践しているわけではありませんし、私たちと同じような信仰を持っている他の教会でも、(何が正しい礼拝なのかについて) 私たちとは異なる線引きを行なっている教会もあります。しかし、ここでも目標は、私たちの礼拝を、神がご自身の民のために啓示されたことにできるだけ一致させることにあるのです。それは、私たちがどのような音楽を使い、どのように演奏するかを決定しています。それは、私たちが礼拝でどのように祈り、礼拝でどのように聖句を使うかを決定しています。音楽や祈りは単なる、礼拝のさまざまなパートをつなぐ繋ぎではないのです。神を礼拝するように導くためにやるようにと(神から)命じられたものであり、重要なものなのです。それは、主の晩餐とバプテスマの儀式をどのように実施するのか、そして神の言葉をどのように宣べ伝えるかに影響するのです。皆さんに必要なのは、私の人生の物語でも、聖書箇所裏付けされた私の意見でもないのです。だからこそ、私は、皆さんが直接、神が皆さんに言いたいと考えていることを聞けるよう、神の御言葉を通して説明的に説教し、聖書の本文に忠実であろうと努めているのです。私たちが礼拝で聞くべきなのは、神の言葉であり、神の声なのです。私たちは、礼拝でのメッセージを日本語と英語に翻訳することで、神の御言葉と神の礼拝が可能な限り教会全体からアクセスできるように努めています。それを通じて神が命じられたとおりに弟子を作ることができるようにしたいと考えています。

そして、私たちがこれらすべてのことを行うのは、14節の終わりにあるように、**わたしは大いなる王であり、……わたしの名は諸国の民の間で恐れられている**」からなのです。私は、皆さんにこの教会に、自分自身はそんな悪くない(それなりにいい人である)と思うため、あるいは、他の人に励まされたり、愛されたりするためだけに来てほしくないと考えています。これらのことは決して悪くはないのですが。そうしたことよりもはるかに大切なことは、私たちが神に対する畏怖と畏敬の念をより強く持ち、ここ横浜をはじめとして、神の御名が多くの人々の間に広まる必要があるという切迫した気持ちをより強く、この教会から帰る時に持って欲しいと思っています。私たちの希望が神に愛されていることに裏付けられていると私たち自身が確信できる時にのみ、神の御名を多くの人々の間に広めるという目標を成功させることができるのです。神の愛がその民にとどまっていることを知ることが大切なのです。私たちがイエスに焦点を当てる時、すなわち、イエスを救い主として遣わされた時に示された神の愛に焦点を当てている時にのみ、私たちの礼拝は神が意図されたものになるのです。このような時にのみ、神に焦点を当てた礼拝を捧げることができるのです。このような時にのみ、神の御前で神に相応しい礼拝を捧げることができるのです。そして、神が「わたしはあなたを愛した」と言われたからこそ、私たちが持っている希望を思い起こすことができるのです。神様が私たちを愛してくださっているということが私たちの希望なのです。それでは祈りましょう。

## Malachi: Hope in Darkness / Malachi 1 – Hope Remains

Today, we begin our Advent Series for 2024. I want to go through the 4 chapters of the Old Testament book of Malachi over the next 4 weeks as we build up to the celebration of the first Advent, the coming of Jesus Christ into the world on the day we celebrate as Christmas. Of course, the coming of this prophesied Savior, the Jewish Messiah who would be given to the world to die for the sins of humans to purchase our eternal salvation is the first event we are told about in the New Testament. But God gave us all the Jewish Scriptures, the Old Testament as His inspired and inerrant Word before the coming of Jesus. And those Scriptures point us to the coming of Jesus. As you can tell by looking in your index in your Bible, Malachi is the last of God's Words to us before the coming of Jesus. After this, God would not speak again in a way that we have recorded for us for 430 years. Those years are a time of God's silence towards his people. And the reason for that silence can be seen in the issues addressed in the book of Malachi.

You need to know the background of what was happening in Israel at the time. In 586BC, the people of Israel after roughly 460 years of kings starting with King Saul and then King David were defeated by the Babylonians and many were taken into captivity in the land of Babylon. The Babylonian captivity ended when Babylon was conquered by Persia and the Persian king freed the people of Israel to return to Israel. So, beginning in 536BC with 50,000 returning under Zerubbabel, then in 458BC under Ezra, and finally a third group under Nehemiah, the people had gradually returned to the land of Israel. The temple and the city had been rebuilt by the time of Malachi, and the people of Israel had been out of captivity about 100 years. But there is a strong sense of despair and darkness throughout the land that can be seen in Malachi. Their worship was weak. It was half-hearted. Their sin of failing to really worship God infected all parts of their society. That came from a place of unbelief in their God. After all, the promised Messiah who would rule and reign from Jerusalem had not come and while they were now out of captivity, but still under foreign rule, God had clearly in their minds, forsaken them. And it is in the context of their dark hopeless spiritual state that we read in verse 1 of Malachi, **1 The oracle of the word of the LORD to Israel by Malachi.**

Clearly, the next question for us is, "Who is Malachi?" We do not know much about the prophet Malachi outside of this book of the Bible. In fact, Malachi may not even be a proper name. The name Malachi means "my messenger." So this final prophet may indeed be actually nameless, which is perfectly okay, because what is important is that it is not his message that is being delivered. So, whose message is this? The Bible is clear, this is God's message. It is the **oracle** or message, or prophecy of **the word of the LORD!** The word Lord in English versions is all capitalized and in Japanese SHU is in bold to show us that this is the proper name for God, YAHWEH. Malachi is just the messenger. The message is from God himself. So whatever he says should be listened to...not because of the messenger, he is unimportant, but because of the person sending the message. And in this case that person is God. What God says will come in a series of 7 statements spread across the 4 chapters of Malachi, and then 7 questions where the people of Israel question God's statement, and then God defends what he says. Today we see the first two of those dialogues. Let's read verses 2-5. First, we see the statement - **"I have loved you," says the LORD.** Then we see their question - **But you say, "How have you loved us?"** Then God's response - **"Is not Esau Jacob's brother?" declares the LORD. "Yet I have loved Jacob<sup>3</sup> but Esau I have hated. I have laid waste his**

hill country and left his heritage to jackals of the desert.”<sup>4</sup> If Edom says, “We are shattered but we will rebuild the ruins,” the LORD of hosts says, “They may build, but I will tear down, and they will be called ‘the wicked country,’ and ‘the people with whom the LORD is angry forever.’ ”<sup>5</sup> Your own eyes shall see this, and you shall say, “Great is the LORD beyond the border of Israel!”

The beginning of Malachi’s prophecy from God begins with the beautiful words, “I have loved you!” This is the primary message God wants his people to hear. God has an intense bond with his people that he has chosen as His own. But in what we will see is their hopeless apathy towards God, they question his love. **How have you loved us?** We don’t see any evidence of that. When the people looked around what they saw was a rebuilt temple that was nowhere near as beautiful as the first one that King Solomon built, a Jerusalem where no king of Israel reigned from David’s line, and the constant reminder that they existed only by the good will of the Persian empire. They were not their own independent country with their own king. They saw no evidence of the love that God says he has towards them. So, God takes them back to the earliest days of their ancestors, when Jacob and Esau, two twin brothers were born to Abraham’s only son Isaac and his wife Rebekah. Jacob would eventually have 12 sons who would become the heads of the 12 tribes of Israel. God would lead those 12 tribes out of their land of captivity in Egypt where they numbered into the hundreds of thousands and lead them into the promised land of Israel where they now had been restored, but not with the glory of the former kingdom. But all of that history began with one small choice by God’s Sovereign plan. God chose to love Jacob rather than Esau, his brother. God could have chosen Esau, and done the same thing through him. Instead, he chose Jacob and made him into the nation that was now questioning his love for them. He could have treated them in the way he treated the Edomites who came from Jacob’s brother Esau. His wrath was against the Edomites because historically, one of their tribes, the Amalekites were one of the first people to come against Israel. [Exodus 17:8 tells us,](#)  
<sup>8</sup>[Then Amalek came and fought with Israel at Rephidim.](#) The Amalekites and other Edomite tribes continued to be a thorn in Israel’s side throughout their history until they were ultimately defeated and their homeland became a barren desert. The Edomites still existed in the time of Jesus, but just a small remnant of the great people and tribes that they used to be. And all this took place because God chose to love Jacob rather than Esau. In fact the love for Jacob was so strong that the word God uses to contrast that love is hate. We should not see this “hate” in some sort of sinful way, but instead we should see that all of us by virtue of being human beings should be hated by God, because of our sin. This hatred is described as God’s wrath. [Romans 1:18 tells us,](#)  
<sup>18</sup>[For the wrath of God is revealed from heaven against all ungodliness and unrighteousness of men, who by their unrighteousness suppress the truth.](#) And a few chapters later in Romans 3, it becomes clear that all of us are unrighteous and ungodly. [Romans 3:23](#) draws the conclusion, <sup>23</sup>[for all have sinned and fall short of the glory of God...](#) All of us deserve God’s wrath, but in his great love, he chose some, like Jacob, for salvation rather than to receive the just rewards of our sin. That shows his great love for those he chose. But just like the people of Israel, rather than seeing the incredible goodness and love in God for redeeming sinners, we can become like Israel and question God, **How have you loved [me]?** We fail to see just how incredibly powerful the words of [John 3:16](#) really are. <sup>16</sup>[“For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life.](#) God could not show his love to those in sin. The only truly righteous and holy response to our sin was his wrath.

But God chose to send Jesus Christ, his only Son, to die on a cross and take that wrath upon himself, and die in our place for our sins. He became our substitute, so that rather than responding to us with wrath, God can act towards those he chooses in love. The people of Israel were the first to experience that, and demonstrate what Jesus would accomplish for us. God calls his people to look back at his treatment of them compared to the Edomites and understand in that his great love for them. So, verse 5 ends this first section, <sup>5</sup> **Your own eyes shall see this, and you shall say, “Great is the LORD beyond the border of Israel!”** The first answer to the despair and hopelessness that can creep into our lives even as Christians is to look back at how loved we are by God in the fact that he sent a redeemer, pictured all through the Old Testament, to redeem us; and he chose us to be saved from his wrath by the shed blood of our Savior Jesus Christ.

One of the reasons that the people of Israel had found themselves in a situation where they were not trusting God, where they were not seeing his great love for them, and were in a state of hopeless despair is that they had turned even worship into just a pattern of apathetic rituals. And it was their religious leaders, their Priests who bore the highest blame for this. So, for the next two statements, God will address the priests. We will look at just the first one today. Again, we see the same structure. First we see God’s statement again in verse 6. <sup>6</sup> **“A son honors his father, and a servant his master. If then I am a father, where is my honor? And if I am a master, where is my fear? says the LORD of hosts to you, O priests, who despise my name.** Then we see the questioning of this by the people or more likely the priests as verse 6 ends. **But you say, ‘How have we despised your name?’** Then God’s response showing the proof of what he says starting in verse 7. <sup>7</sup> **By offering polluted food upon my altar. But you say, ‘How have we polluted you?’ By saying that the LORD’s table may be despised. <sup>8</sup> When you offer blind animals in sacrifice, is that not evil? And when you offer those that are lame or sick, is that not evil? Present that to your governor; will he accept you or show you favor? says the LORD of hosts. <sup>9</sup> And now entreat the favor of God, that he may be gracious to us. With such a gift from your hand, will he show favor to any of you? says the LORD of hosts. <sup>10</sup> Oh that there were one among you who would shut the doors, that you might not kindle fire on my altar in vain! I have no pleasure in you, says the LORD of hosts, and I will not accept an offering from your hand. <sup>11</sup> For from the rising of the sun to its setting my name will be great among the nations, and in every place incense will be offered to my name, and a pure offering. For my name will be great among the nations, says the LORD of hosts. <sup>12</sup> But you profane it when you say that the Lord’s table is polluted, and its fruit, that is, its food may be despised. <sup>13</sup> But you say, ‘What a weariness this is,’ and you snort at it, says the LORD of hosts. You bring what has been taken by violence or is lame or sick, and this you bring as your offering! Shall I accept that from your hand? says the LORD. <sup>14</sup> Cursed be the cheat who has a male in his flock, and vows it, and yet sacrifices to the Lord what is blemished. For I am a great King, says the LORD of hosts, and my name will be feared among the nations.**

If you were to choose a key verse for Malachi, it would probably be verse 6, **If then I am a father, where is my honor?** The Priests who were supposed to lead the people in the worship of God were leading in worship in a way that did not honor God. The sacrifices, rather than being a symbol of the purity required by the one who would take the wrath of God for OUR sins but none of his own, were imperfect and flawed. The disrespect for the worship of God shown by these acts brought God to the place of cursing those priests and those raising and offering those animals. When we worship, God demands

and expects our best! He has every right to do this as our creator. He determines what worship to him should look like. Notice in verse 8 that they were treating God worse than their Civil Government leaders. **Present that to your governor; will he accept you or show you favor? says the LORD of hosts.** If you would not treat a human leader with that type of disrespect, why would you treat the God of the universe in that way. We should apply this to our own situation. God demands worship in certain ways. We can't just decide how we want to worship God, based on how we feel about it or what is convenient for us or what seems to "work." Our worship, starting with "what is a church," must be based on God's ideas. And we find those ideas in Scripture. **There are two ways of looking at worship. One says we worship how God has specifically commanded us to do, and the other says that anything not specifically forbidden in Scripture is allowed. I hope you can feel we try to align our worship closer with the first way. We attempt to structure our worship and even our church government closely aligned with the commands and patterns we see in Scripture itself. ~~There is a Reformed principle of worship, called the Regulative principle. It says that we worship how God has specifically commanded us to do. That is contrasted with the idea of the Normative principle, that anything not forbidden in Scripture is allowed. We try to structure our worship and even our church government based on that Regulative Principle.~~** Our church and our worship should be in line with the commands and principles laid out in the Bible. Of course, we don't do this perfectly and other churches who also believe as we do, would draw different lines than we do, but the goal is to conform our worship as closely as possible with what God has revealed for his people. That controls what music we use, and how we perform it. It controls how we pray in worship, and use Scripture in worship. It is not simply a transition. It is commanded and prominent in leading the church to worship God. It affects how we view the ordinances of the Lord's Supper and Baptism, and how we preach the Word of God. You don't need my life stories or my opinions with proof texts added, so I preach expositionally through the Word of God, staying very close to the text of Scripture so we can hear from God exactly what HE is telling us. His words, His voice is who we want to hear from in worship. We translate into Japanese and English, so we can try to make sure that the Word of God and the worship of God is accessible to the entire church to the greatest degree possible, so we can make disciples as God has commanded us to do.

And we do all of these things because as verse 14 ends, **For I am a great King, says the LORD of hosts, and my name will be feared among the nations.** I don't want you to come in this building and ONLY leave feeling good about yourself or encouraged or loved; now all those things are good. But far greater than any of those, is we should leave this place with a greater fear and awe of our God, and a greater sense of urgency that his name needs to be spread among the nations starting right here in Yokohama. We will only be successful in that goal when our hope is solidly based in knowing that God loves us. Knowing that God's love remains with his people. When we are looking at Jesus and seeing the love of God that he showed us by sending him as our Savior, then our worship will be what God intends it to be. It will be focused on Him. It will be reverent before him. And it will remind us of the Hope we have because God says, I have loved You. That's our Hope, that God loves us. Let's pray.